

拝啓 10月も早や下旬、涼しい秋がやってきました。いつもエンカウンターをお読みいただきありがとうございます。今年は、10月というのに台風が何度もやってきたり、秋らしいさわやかな日も少なかったように思います。本誌読者である相沢悦子様がいらっしゃる伊豆大島では、大雨による土砂崩で大きな被害が出て、心よりお見舞い申し上げます。

今月からは、石館守三先生の『はまなすの小道』から引用紹介致します。石館守三先生は、小西芳之助先生を助け、昭和24年にご自分の敷地内に高円寺東教会を建て、終生支援されました。月に1回は、高円寺東教会で講壇に立たれました。今回、石館守三先生の年譜を最初に掲げましたが、気が付きましたことをいくつか挙げてみます。

矢内原忠雄全集第29巻の年譜によりますと、石館先生は、大正14年6月に、東大聖書研究会ができたときの発足当時の会員でした。

ドイツに留学されるのが昭和11年(1936年)から13年(1938年)、その後しばらく教会から足が遠のいていましたが、昭和15年白山教会に呼び戻された、昭和20年8月、白山教会の藤田牧師とともにモーク先生を受け取りの願いに警視庁に行き、モーク先生を1年高円寺の自宅にお預かりしました。

東大学生のキリスト教主義の寮である同志会の理事長に就任したのが昭和21年2月、その後37年も、同志会理事長を勤められました。

ハンセン病の特効薬プロミンを製造されたことが石館先生の最大の功績だと思いますが、プロミンの製造に関する情報を得たのが昭和18年頃、製造に着手したのが昭和19年頃、試供品を製作、患者に投与されたのが昭和21年4月のようです。ここのところはもう少し正確に調べてみたいと思っています。

東大教授をやめられたのが昭和34年、その後の活動もすごいと思います。

昭和37年3月 社団法人キリスト教海外医療協力会初代会長(10年)  
昭和39年6月 財団法人クリスチャンアカデミー理事長(21年)  
昭和40年12月 厚生省国立衛生試験所長  
昭和49年5月 財団法人笹川記念保健協力財団理事長  
昭和60年9月 財団法人日中医学協会理事長、63年3月会長(7年)

このような実に大きな働きをされた石館先生に、小西先生の同労者として身近に接することができた私たちは幸せでありました。これから数回、「はまなすのこみち」に載っているキリスト教関係の講演などから、引用して参ります。

これから寒さに向かう時期になりますが、どうぞ、お身体ご自愛のほど祈り申し上げます。

敬具

平成25年10月25日

山口周三

エンカウンター読者の皆様各位